

	6月		7月					8月						
	飛来日	2 5	1	5	10	15	20	25	1	5	10	15	20	25
セジロウンカ														
△ 6月21日	AAAAAA-		-----o	o	o	@	@	@	o	o	o	o	o	o
△ 7月2日			AAAAAA-		-----o	o	o	@	@	@	o	o	o	o
△ 7月4日			AAAAAA-		-----o	o	o	@	@	@	o	o	o	o
トビロウンカ														
△ 6月21日	AAAAAAA	A	-----o	o	o	@	@	@	@	o	o	o	o	o
△ 7月2日			AAAAAAA		-----o	o	o	@	@	@	o	o	o	o
△ 7月4日			AAAAAAA	A	-----o	o	o	@	@	@	o	o	o	o
コブノメイガ														
△ 6月21日	AA-----	@	@	@	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
△ 7月2日			AAA-----	@	@	o	o	o	o	o	o	o	o	o
△ 7月4日			AAA-----	@	@	o	o	o	o	o	o	o	o	o

図 重要害虫防除適期予測図

予測月日 2008年 7月 14日

凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 +: 蛹 @: 防除適期  
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

概要

1 セジロウンカ	<p>(1) 飛来状況 6月11日に萩市明木の巡回調査ほ場で初確認(平年5月30日)され、平年に比べやや遅かった。飛来日は、6月21日(少)、7月2日(少)、4日(少)頃と推測された。現在まで、まとまった飛来は認められなかった。予察灯における誘殺数(4か所、5月11日～7月8日合計)は、16頭(平年1,550頭)で平年に比べ少なかった。</p> <p>(2) ほ場発生状況 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率55.8%(平年72.1%)、10株当たり虫数2.8頭(平年18.2頭)で平年に比べやや少なかった。</p> <p>(3) 防除対策 本年は防除の必要性は低い。穂ばらみ中期までに株当たり50頭以上(成虫・幼虫)の発生があれば、褐変種を生じるおそれがあるので薬剤散布を行う。6月中下旬移植では、分げつ抑制を回避するため、株当たり50頭以上(成虫・幼虫)の発生があれば防除を行う。</p>
2 トビロウンカ	<p>(1) 飛来状況 6月9日に下関市の予察灯で初確認(平年6月21日)され、平年に比べやや早かった。飛来日は、6月21日(少)、7月2日(少)、4日(少)頃と推測された。現在まで、まとまった飛来は認められなかった。予察灯における誘殺数(4か所、5月11日～7月8日合計)は、2頭(平年6.9頭)で平年並みであった。</p> <p>(2) ほ場発生状況 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年5.2%)、10株当たり虫数0頭(平年0.12頭)で平年に比べやや少なかった。</p> <p>(3) 防除対策 本年は防除の必要性は低い。防除の目安は、7月下旬～8月上旬では20頭/100株以上、8月中旬～9月上旬では5頭/株以上である。本年の防除適期は、幼虫最盛期に当たる7月中下旬及び8月中下旬と推定される。</p>
3 コブノメイガ	<p>(1) 飛来状況 6月25日に山陽小野田市の雑地すくい取りで初確認(平年6月24日)され、平年並みであった。飛来日は、6月21日(少)、7月2日(少)、4日(少)頃と推測された。現在まで、まとまった飛来は認められなかった。山口市のマレーズトラップにおける誘殺数(6月1日～7月13日合計)は、0頭(平年30.4頭)で平年に比べ少なかった。</p> <p>(2) ほ場発生状況 7月中旬の巡回調査では、20回成虫払い出し頭数は0.05頭(平年1.06頭)で平年に比べ少なかった。7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%(平年23.4%)、被害葉率0.001%(平年0.11%)で平年に比べ少なかった。</p> <p>(3) 防除対策 本年は防除の必要性は低い。防除要否の目安は、成虫の払い出し(7月下旬から8月上旬)による調査で5頭/m<sup>2</sup>以上である。防除適期は、粉剤の場合は成虫最盛期から7日後(若令幼虫最盛期)、粒剤の場合は成虫最盛期である。葉色の濃いイネで被害が出やすいため、注意する。</p>